

第7回「住友理工 ^{ゆめ まち ひと} 夢・街・人づくり助成金 in 裾野・御殿場・長泉」
助成金交付申請書

申請日：令和5年 7月 〇日

住友理工 夢・街・人づくり助成金審査委員会 御中

1. 申請団体について

団体名	(ふりがな) 〇〇〇おたすけたい		
	〇〇〇お助け隊		
代表者氏名	(ふりがな) とうかいたろう		
	東海太郎		
団体所在地	〒410-0000 裾野市平松〇-〇-〇		
団体連絡先	TEL (055) 992-0000	FAX (055) 992-0000	
	E-mail otasuke-XX@△△.ne.jp		
ホームページ	http://otasuke-XX.jp		
担当者連絡先 (代表者と同一の場合は記載不要)	(ふりがな)		
	氏名		
	TEL (連絡の取りやすい番号)		
	E-mail		
設立年月日 (活動開始時期)	平成28年 5月 1日	構成人数	5人
団体の活動目的 (団体の設立目的・活動目的)	この団体は、〇〇地区の高齢者のみの世帯や高齢者の一人暮らし、体が不自由な方、子育て中の方など支援を必要とする方を対象に、日常生活で困っていることなどを手助けする活動を行うことを目的とする。		
主な活動場所・活動実績	活動場所：依頼者の自宅など 活動実績： ・高齢者や体が不自由な方のご自宅の草刈り、買い物代行などの生活支援活動 ・子育て中の母親からの相談を受ける活動		

2. 提出書類について ※必ず□にチェックを入れること。

- 1) 助成金交付申請書
- 2) 団体の会員名簿 (任意様式)
- 3) 団体の規約、会則等 (任意様式)

3. 申請事業について

(1) 申請区分

助成金の区分 (申請する部門にチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 夢づくりスタート部門 (50,000 円) <input type="checkbox"/> 街・人づくり部門 (100,000 円)	
該当する分野 (該当するものにチェック※複数可)	<input type="checkbox"/> ダイバーシティへの貢献 <input type="checkbox"/> 市民活動への貢献 <input type="checkbox"/> 青少年の育成への貢献 <input type="checkbox"/> 自然環境との共生への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> まちづくりへの貢献	
SDGs の目標 (申請事業に当てはまると思う項目にチェック ※複数可)	<input type="checkbox"/> 貧困をなくそう <input checked="" type="checkbox"/> 人や国の不平等をなくそう <input type="checkbox"/> 飢餓をゼロに <input checked="" type="checkbox"/> 住み続けられるまちづくりを <input checked="" type="checkbox"/> すべての人に健康と福祉を <input type="checkbox"/> つくる責任、つかう責任 <input type="checkbox"/> 質の高い教育をみんなに <input type="checkbox"/> 気候変動に具体的な対策を <input type="checkbox"/> ジェンダー平等を実現しよう <input type="checkbox"/> 海の豊かさを守ろう <input type="checkbox"/> 安全な水とトイレを世界中に <input type="checkbox"/> 陸の豊かさも守ろう <input type="checkbox"/> エネルギーをみんなに そしてクリーンに <input type="checkbox"/> 平和と公正をすべての人に <input type="checkbox"/> 働きがいも経済成長も <input type="checkbox"/> パートナーシップで目標を達成しよう <input type="checkbox"/> 産業と技術革新の基盤を作ろう	
他助成金との併用	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	

(2) 実施したい事業について記入してください。

申請事業名	高齢者のお困りごと支援 事業
事業実施期間	令和 5 年〇月〇〇日 ~ 令和〇年〇月〇〇日まで
<p>1) なぜ、この事業を行うのですか？</p> <p>① 社会課題や社会ニーズ 高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加しており、孤立死（孤独死）も増加傾向にある。こうした世帯は「誰とも会話をしない」「近所づきあいをしない」「困ったときに頼れる人がいない」など、社会から孤立した状態で生活に不安を感じているが、サポートの手が届いていないのが現状である。さらにコロナの影響で人との交流の機会がますます減っており、高齢者の孤立の問題が深刻化している。</p>	

② 事業目的

困りごとの支援やコロナ禍に応じた支援を地域の者が地域の中で行うことで、サポートする側と課題を抱えている世帯の人がお互いに「顔の見える関係」を築くことができ、高齢者が安心して暮らせる地域づくりの基礎を作ることができる。

2) どのような事業を行いますか？

<事業内容を具体的に記入>

① いつ

〇年〇〇月～〇年〇〇月

② どこで

依頼者の自宅など

③ 何を何回（内容・講師など）

依頼のあった時に随時支援を行う。また定期的に高齢者宅を訪問する。

例) 電球や蛍光灯の交換、家具や荷物の移動、自宅の清掃、庭の草刈り、生活用品の買い物支援、外出支援、話相手になるなどを想定。

④ 誰に（対象者）

一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯の方

⑤ 安全性の担保方法（感染症対策や参加者の安全の確保など）

ボランティア保険に加入する。感染症対策をしっかりと行う（訪問の際の手指消毒・マスクの着用・支援活動の際の対人距離の確保・緊急事態宣言などが発令された場合は訪問を控え、代替支援として電話やはがきなどで状況の聞き取りを行う。）

3) どのようなスケジュール・体制で事業を行いますか？

<いつ頃、どのような体制（役割分担・協力先など）で行うかを記入>

① 準備期間

〇月上旬：事業内容の詳細を決定

〇月下旬：チラシなどによる募集開始（募集は随時行う）

② 中間報告時期

〇月中間報告書の提出

③ 実施時期

〇月～〇月生活支援活動／相談は随時受付

④ 検証期間

〇月事業の振り返り

⑤ 実績報告時期

〇月事業報告書の政策提出

4) その事業を行うことにより、どのような効果が期待できますか？

＜誰にどのような効果をもたらし、現状（課題）をどのように変えたいと考えているかを記入＞

- ・支援活動を行うことで、地域にどのような方がいるのかが把握でき、孤立死などを防ぐことができる。
- ・支援活動から近所づきあいの輪が広がり、一人暮らしや高齢者世帯の方たちにいざという時に頼れる人間関係が生まれることで、生活への不安感を軽減してもらえる。
- ・高齢者が安心して暮らせる地域を作るきっかけとなる。

5) 申請事業終了後、どのように発展させていきたいですか？

＜社会全体に対して＞

助成終了後も引き続き支援活動を行い、町内の他地区へも広げる活動を行う。

高齢者や障がい者、子育て世代の方など、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指す。

＜団体運営に対して＞

現在は支援活動を無料で行っているが、事業を継続していくためにも、今後は依頼の内容に応じた利用料を設定したり、積極的に活動のPRを行い、会員を増やすよう努めるなど、事業を継続できるような仕組みづくりを進めていく。また、専門性が必要な作業も行えるよう、人材育成にも取り組む。

6) この事業にかける熱意や自団体ならではのアピールをお書きください。

- ・現在、〇〇地区では特に高齢化が進んでおり、公的なサービスだけでは解決できない地域課題が数多くある。そのため、自分たちの地域の課題は自分たちで解決していくことが必要である。高齢者や障がい者、子育て世代の支援を行うことで、住民同士のつながりが生まれ、お互いに助け合う地域づくりが実現できればいいと考えている。
- ・当団体のメンバーは、シニア世代で構成されている。自分たち自身も高齢者と言われる年代であるため、依頼される方の気持ちがわかるメンバーでもある。

(3) 申請事業における収支計画書

収入の部

(単価：円)

項目	金額	摘要
① 夢・街・人づくり助成金	50,000	助成金
② その他助成金	20,000	〇〇財団助成金
③ 自己資金	5,000	団体会費より
④ その他の資金		
合計 (A)	75,000	

支出の部

(単価：円)

項目	金額	摘要	
助成対象経費	人件費	15,000	スタッフ人件費@500×5人×10回(ガソリン代含む) / 25,000 円の内、助成対象経費は 15,000 円
	通信運搬費	10,000	チラシ等送付代@84×120 通程度
	印刷製本費	10,000	チラシ等製作費 (紙代 5,000 円・印刷代 5,000 円)
	消耗品費	10,000	文具等購入費 (筆記用具・封筒・消毒液等)
	使用料・賃借料	5,000	会場使用料 (事業打合せ等/月一回程度)
	食料費	5,000	打合せ・作業時のお茶代
	保険料	3,000	保険料@100×30名
計 (B)	58,000		
助成対象外経費	人件費	10,000	スタッフ人件費 (助成対象外経費)
	食糧費	2,000	打合せ・作業時のお茶代 (助成対象外経費)
	物品購入費	5,000	工具等購入費
計 (C)	17,000		
合計 (B+C=A)	75,000		